

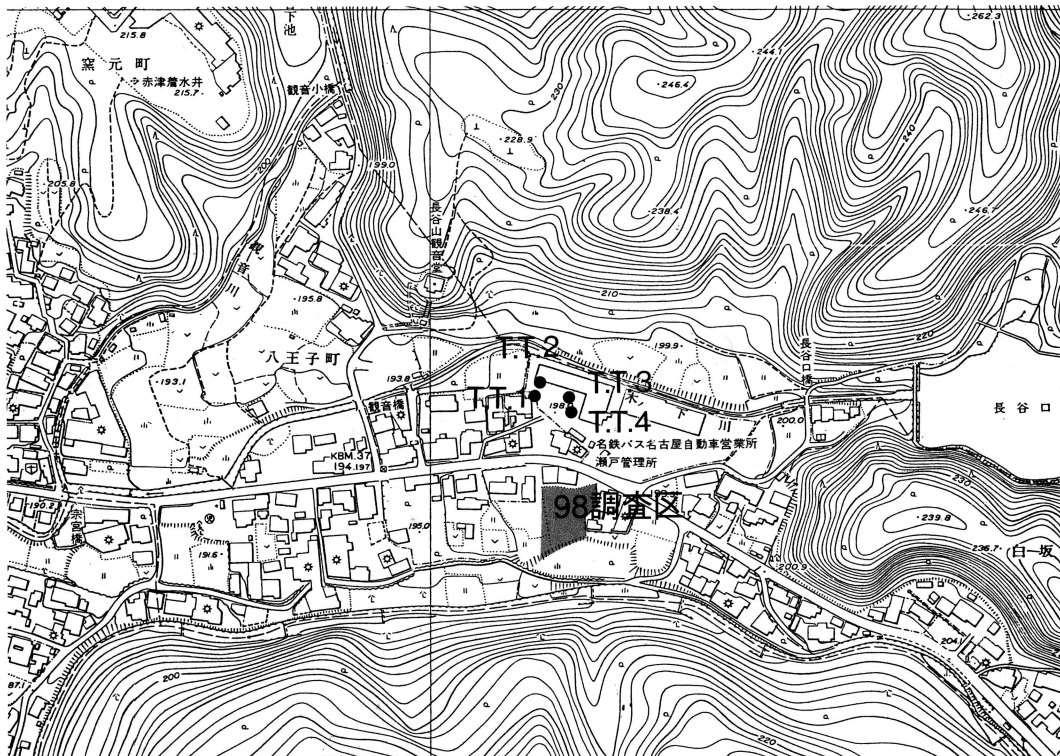
はちおうじ 八王子遺跡範囲確認調査

調査の経過 八王子遺跡は瀬戸市八王子町地内に所在する遺跡で、赤津川と木下川に挟まれた開析谷に形成された狭小な沖積地に立地する。発掘調査は、東海環状自動車道建設に伴うもので、昨年度は範囲確認調査を計100㎡行った。その結果、縄文時代早期（粕畑式）および中世の遺構・遺物包含層の存在が確認された。本年度は、昨年度の調査成果をふまえ、本調査と昨年範囲確認を実施できなかった木下川左岸の一部の調査を実施した。本稿では、この内範囲確認調査の結果を報告する。調査期間は平成11年1月12日から1月19日にかけて、調査面積は20㎡である。

調査の結果 4箇所にトレンチを設定し、バックホウによる掘削を行った後、土層の断面観察及び各層単位の調査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。

客土の除去から開始し掘削を進めていくと、T.T.1では、地表下約1.6mから層厚約15cm程の中粒砂を含んだ黒褐色粘質シルト層が堆積する。この層から石匙・縄文土器が出土し、包含層と確認された。T.T.2もT.T.1と同様の様相であった。T.T.3では、地表下約1.3mから層厚約20cmの床土層を含む暗褐色砂質シルト層が堆積する。この層から灰釉系陶器が出土し、中世の包含層と確認された。T.T.4もT.T.3とほぼ同様の様相であった。4トレンチとも包含層の存在は確認できたが、遺構は確認できなかった。

以上の結果と本調査ならびに昨年度の範囲確認調査の成果等により、本遺跡は赤津川から木下川の間に連続して展開するものと推測することができる。（黒田哲生・武部真木）



八王子遺跡範囲確認調査地点（1：5,000）